

横浜市立



中川小 学校だより 11月

令和5年10月31日発行

学校教育目標 人・自然・まちとふれあいながら、自分を高める中川の子



『 乗り越える力 』

校長 二瓶 庄吾

10月21日(土)、青い空に白い雲が浮かぶ清々しい天候のもと、感染拡大防止の制限がない運動会を4年ぶりに開催することができました。コロナ禍を経て、児童の充実した活動を大切にしながら、安全安心な運動会となるよう多くの議論を重ね今回のかたちでの実施となりました。保護者の皆様には、学年優先観覧スペースのスムーズな交替や譲り合っの立ち見での応援等、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

子どもたちは、最後まで全力で走りきる徒競走や、指先や視線まで神経を行き届かせた力いっぱいの演技、力を合わせて真剣に楽しむ団体競技などに一生懸命取り組み、たくさんの感動を与えてくれました。また、応援や係活動にも積極的に、責任をもって関わり運動会を支え盛り上げました。スローガンのとおり、みんなの「全協力！」で作りあげた中川小の運動会でした。

ただ、運動会を迎えるまでには様々な困難もあったと思います。インフルエンザの流行で、直前まで欠席や学級閉鎖が続くように練習できない状況もありました。なかには、運動会への苦手な気持ちや、うまくできるか心配で大きな不安を抱えながら本番を迎えた子もいたかもしれません。でも、そうした困難に対して、知恵を出し合い、お互いに支え合っ「乗り越える」姿が、この運動会を通してみられました。

このように、思い通りにいかないときにどのように考え行動するか、ということがとても大切であると考えます。このところよく「レジリエンス」という言葉を耳にするようになりました。日本では、東日本大震災以降、困難を乗り越える力や、複雑化する社会環境に適応する力として広まり、宇宙飛行士の野口総一さんが搭乗する宇宙船に、コロナ禍に負けない、という願いを込めて「レジリエンス」と名付けたことでさらに注目を集めるようになりました。

レジリエンス(resilience)は、回復力、反発力、復元力、逆境力などと訳され、困難なことに柔軟に対応したり、受けたストレスから早く立ち直ったりする力で、困難を糧にしてさらなる成長を遂げることも期待されます。これからの予測困難な時代を生きていく子どもたちにとって、レジリエンスを育み高めることはより大切になってきます。運動会という行事を通して、子どもたちは様々な困難を「乗り越える力」を身に付けることができたと思います。

これまで、運動会の準備・練習等でお騒がせしていたにもかかわらず温かく見守っていただいたり、体調管理や励ましの声をかけていただいたりと、ご理解・ご支援をいただきました地域の皆様、保護者の皆様にご心から感謝申し上げます。

